

平成22年度市民と市長のまちかどトーク 開催概要

- 1 日 時 平成22年11月23日（祝） 14：00～15：30
- 2 場 所 小田原ラスカ 6階U-m e テラス
- 3 開催テーマ 「生ごみを資源として考えよう」
～生（いき）ごみ小田原プロジェクトについて～
- 4 参 加 者
 - （1）一般市民：50名
 - （2）市側出席者：市長、加部副市長、大野副市長、環境部長、環境部次長、
環境政策課職員ほか2名、広報広聴室（事務局）
- 5 意見交換の一覧
 - （1）段ボールについて 1
 - （2）シマミミズの活用 2
 - （3）けやきの葉の活用について 2
 - （4）落ち葉で堆肥化することについて 3
 - （5）堆肥の使い道について 4
 - （6）段ボールコンポストのPRについて 6
 - （7）蛆虫について 7

意見交換の概要

(1) 段ボールについて

- ・ 小田原市が段ボールコンポストの基材を提供していることは、すごくよいことである。
- ・ 段ボールコンポストに生ごみを入れると段ボールが水分で壊れてしまう。私は、中に仕切りがないビールケースのようなケースを使っている。そのケースに合う段ボールを使う。その中だと段ボールがしっかりする。ケースと段ボールを重ねるというやり方を参考にされてはいかがか。

加藤市長

- ・ 本市の段ボールコンポストでの堆肥化は、実験段階である。
- ・ 昨年1年間、堆肥化検討委員会の皆さんに参加していただき、生ごみをどのようにしたら堆肥化できるかという検討の全てを託したところ、その方法論として出てきたのが段ボールコンポストの堆肥化、学校での生ごみの収集の2つであった。そこで、段ボールコンポストの堆肥化に参加していただける方を1,000人募り、応募してくださった約800人の方に、小田原市から段ボールなどの基材一式をお渡しし、堆肥化に取り組んでいただいている。現在、生ごみ小田原プロジェクトの方から感想などの報告を受けながら、来年どのくらいの規模で取り組んでいこうかと検討しているところである。継続して取り組んでいかれる方には、しばらくは市からバックアップをしたい。
- ・ 私は、すでに3つ目の段ボールを使っている。コンテナにはまる段ボールがあれば、都合が良いと思う。ご提案に感謝する。

(2) シマミミズの活用

- ・ 小さな庭なので、段ボールコンポストでできた堆肥を使う場所がない。シマミミズを25匹買ってきて庭に放し堆肥化を行った。お金がかからないので、そのようなことを行っている。甘いものを庭に埋めるとシマミミズのごちそうになる。

加藤市長

- ・ 厚木でミミズを養殖されている所に行ったことがある。太いミミズとシマミミズの2種類を飼っていらっしやった。非常に有効な手段である。庭があればよいが、一般的にミミズで堆肥化に取り組むのは難しいので、比較的安価で取り組める段ボールコンポストによる堆肥化を選択した。段ボールコンポストでなければいけないということはない。いろいろなやり方があってよいと思う。

(3) けやきの葉の活用について

- ・ けやきの葉が枯れる季節である。落ち葉がたくさん落ちている。ごみではなく、堆肥に利用できないか。

加藤市長

- ・ 昔、野焼きができたころ、この時期は落ち葉を燃やしたが、今は野焼きができないので、収集して環境事業センターに持ち込まれる。これは、非常に惜しい気がする。芦子小学校など、堆肥化ができる環境のところはみんなで集めて腐葉土を作っているが、実際は取り組めないことが多い。うまく資源として回せるようにしたい。

環境部次長

- ・ 環境再生プロジェクトというのがある。大道公園に花を植えている団体が、今回腐葉土を作る方法を始めた。まだ1か所であるが、プランターを小田原市が

配り、住民の方に腐葉土を作ってもらい、その土を使って、そのプランターに花を植えてもらう取り組みである。落ち葉は燃やせばごみになるが、活かせば肥料となる。

(4) 落ち葉で堆肥化することについて

- ・ 落ち葉で堆肥化に取り組んでいる。くぬぎなどの葉が使い勝手がよい。生ごみを入れたときには米ヌカを入れて取り組んでいる。段ボールコンポストで堆肥化に取り組んでいることは、非常によいことだ。

久野地区 星野会長

- ・ 農家の立場から言わせていただく。袋で発酵させるのは難しい。みかんコンテナ1つ分に45Lの袋で3袋分くらいの量が収まるので、できればコンテナを外に置いて、生ごみを入れたら、米ヌカを入れ、それから水を入れ、かくはんし、様子を見てほしい。堆肥ができると思う。堆肥化しなければ、乾燥してできないと思われる。

加藤市長

- ・ かなり技術的な話になってきた。どこの地域にも葉の散る木がある。道路に面した木もある。これから本市で行おうと考えていることは、市内の約130の都市公園を非常に少ない職員が管理をしているので、住民の方と一緒に公園を管理できないかということである。来年度はいくつかの公園をモデルに木の手入れ、花壇を作るなど取り組みを始めたい。都市公園を気持ちのよい場所にしていくなかで、地域から出る落ち葉類をストックして、堆肥化し、それを使用していければ、落ち葉を捨てるという問題はよい方向に向かうと思う。チャンスは身近にあるので、ご自宅の落ち葉を持ち込んでいただくなど、参加していただきたい。

(5) 堆肥の使い道について

- ・ 開成町では堆肥を作っているが、使い道がない。地域でできたものを地域で使うことが徹底されていないと、堆肥をどのように使えばよいのかがわからない。小田原駅の周辺は、マンションばかりで、城址公園でしか堆肥を使うことができない。落ち葉で作った堆肥は結局、家庭菜園でしか使えない。段ボールコンポストには、できた堆肥を使えない地域と使える地域の温度差がある。城址公園のなかでは、堆肥を使うことは難しい。駅の周辺でも堆肥を使い、観光客が歩いていて気持ちがよいと思ってもらえるような工夫や使い方をしてもらいたい。

加藤市長

- ・ 堆肥を返す土地がある所は、段ボールコンポストでできた堆肥を使うことができる。落ち葉を集めるだけの庭があることは、できた堆肥を使うことができるということだが、市街地において、できた堆肥を成果物としてどのように利用していくかは、これから考えていく必要がある。
- ・ 約60人の生ごみサポーターが、それぞれの地域に登録されている。できれば、それぞれの地域で生ごみ堆肥化の取り組みを教えていただき、地域で段ボールコンポストの取り組みでできた堆肥をその地域の土に返し、利用できるようにしたい。
- ・ 電動生ごみ処理機は、報徳小学校などの5校に配置されている。幼いころから、生ごみは、大地に戻して活かすものだということを学ばせることが大切である。電動生ごみ処理機がある所は処理機を活用し、無いところは段ボールコンポスト、学校の菜園、畑を使って各学校で土に返す取り組みを行っている。これから生ごみ堆肥化の取り組みを各小学校に伝えていきたい。
- ・ 報徳小学校は非常に良い取り組みを4年ほど行っている。よいモデルがあるということぜひ全市に伝えていきたい。

報徳小学校 佐藤教頭先生

- ・ 学校でできた堆肥を地域に還元するということが、地域にお住まいの方は

学校の敷地に入りにくい。火、金曜日にシルバーボランティアの方が地域を歩いて生ごみを集めてくださっている。学校でできた堆肥をシルバーボランティアの方が、学校から地域の堆肥を欲しい方に差し上げている。また、バザーのときに、学校の入り口に、学校で取り組んでできた堆肥を小分けにした100個の袋を置いたところが全て無くなって、地域の皆さんに配ることができ、地域に還元していると感じた。

- ・ 自分は畑が無いので、自宅の庭にプランターを置き、その堆肥を今まで買っていた。しかし、今回は生ごみでできた堆肥だけを使ってプランターで野菜を育てたところ、作物が木のように大きく育った。

生ごみサポーター 笠原氏

- ・ 街中でできた堆肥は処分に困るということだが、金曜日にビニールの袋に入れてごみの集積所へ出すと、市で引き取ってもらえると聞いた。

環境部次長

- ・ 段ボールコンポストでできた堆肥を処分できない場合は、市で収集している。しかし、800件以上の方が段ボールコンポストに取り組んでいただいているが、収集した件数は2件のみである。ほとんどの方が、自宅の花などを育てるのにできた堆肥を有効活用しているのではないかと考えている。

久野地区 星野会長

- ・ 農家の立場からすると、作物の栽培は有機栽培で作りたい。化学肥料で作物を作りたいと思っている人はいない。しかし、堆肥がないから、やむを得ず化学肥料を使っている。生ごみで作った堆肥を使うと、生育しすぎるくらいである。それほど肥料的な価値は大きい。10aの畑には10tの堆肥を使うが、10tの堆肥を買うにはお金がかかる。家庭の生ごみが堆肥として使えることになれば、地域の中で円滑に有効活用できる。堆肥はいくらでも欲しいという人がたくさんいる。

(6) 段ボールコンポストのPRについて

- ・ ホームページで段ボールコンポストのPRをしてほしい。
- ・ 星野さんに伺いたい。有機肥料がよいとわかっていながらも、化学肥料に頼ってしまうということだが、小田原市内の農家の方は段ボールコンポストによる堆肥を使った農法についてどのように考え、どのくらい理解されているのか。また、流通制度を確立しないと農家の方が受け入れ態勢ができないのではないか。
- ・ 家庭のごみからできる堆肥は汚染物質が入っているのではないか。堆肥の安全確認はいかがか。汚染物質が入っていないとわかれば、農家の人は安心して使うことができる。

久野地区 星野自治会長

- ・ 家庭で生活をするなかで、発生した生ごみである。汚染物質が入っているような食事をしていないと考えている。自然環境で汚染物質が入っていないことが、人の生活の中での必須事項であり、それを心掛けているので、皆さんの生活では、汚染物質はクリアされていると認識している。
- ・ 段ボールコンポストを行う上で入れてはいけない物は、発酵しない物質、ビニール系の樹脂のみである。これらが入らないことのみを注意すればよい。魚の骨なども、時間をかければ発酵するので、安心してほしい。家庭生活の生ごみ堆肥の希望は、非常に大きいものである。
- ・ 農家には大きなコンポスターがあり、それにより、堆肥化も行っている。生ごみを燃やさず分別して資源化に取り組んでいくことを多くの方に理解していただきたい。

環境部次長

- ・ ホームページでは、段ボールコンポストについて掲載している。市のホームページで、すぐに段ボールコンポストの記事にたどり着かない、ホームページが見にくいということについては、検討していく。

- ・今回はモデル事業であるので、学校と家庭でできた堆肥について、成分分析を今年度中に行う予定である。
- ・段ボールコンポストは当初、813件の応募があった。これには段ボールコンポストに取り組んでいる職員の数は入っていない。職員が段ボールコンポストについて、説明もできない、まったくわからないということでは困るので、職員も市長も段ボールコンポストに取り組んでいる。段ボールコンポストに取り組んだ市民813人にアンケートをとったところ、517人の回答があった。「段ボールコンポストに取り組んでよかった」、「今後も続けていきたい」との感想が多かった。段ボールコンポストをぜひ続けてもらい、また、さらに多くの方に取り組んでもらいたい。
- ・1,000件の方に取り組んでいただくと、年間150tくらいの生ごみが減る。約400万円くらいの経費を削減できる。取り組む人が増えていけばもっと経費を削減できるので広げていきたいと考えている。
- ・報徳小学校で取り組んでいる電動生ごみ処理機での取り組みを今後は広げていきたい。しかし、50kgでオーバーフローをしてしまうので、その辺りを考えて取り組みを拡大したい。
- ・市民の皆さんの意見を伺いながら、取り組んでいきたい。

(7) 蛆虫について

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・段ボールコンポストに取り組んでいる方に見せてもらったら、蛆虫がいっぱいいた。蛆虫はどうかならないかと思った。段ボールコンポストに取り組んでいる方によって差があるのか。 |
|--|

加藤市長

- ・自分の所では、蛆虫とみえるものは1回も出たことがない。

生ごみサポーター 笠原氏

- ・段ボールコンポストに取り組む上で、蛆虫は避けて通れない。虫を好きになる

しかない。虫は害を与えるのではなく、生ごみを食べ、そして亡くなるのである。

- ・ 私の段ボールコンポストも、加藤市長と同じように蛆虫は出たことがない。虫は、気にしないようにするしかない。
- ・ 段ボールコンポストに入れてはいけない物を紹介する。星野さんが先ほどおっしゃっていたが、ビニール系の物である。食べ物に関して、段ボールコンポストに入れてはいけない物はほとんどない。私は、アボカドが好きでよく食べるが、段ボールコンポストに入れるとすぐになくなる。シジミ、アサリもなくなるが、カキとハマグリは、段ボールコンポストに入れてもなくなる。玉ねぎの皮、枝豆の皮は消化しにくい。鳥の骨もなくなるが、入れてはいけない物はあまりないので、安心してほしい。

久野地区 星野会長

- ・ 虫が湧いたならば、温度を上げるのがよい。段ボールコンポストの中に米ヌカを入れ、水分を入れて、かくはんすれば死滅する。

環境部次長

- ・ 517人のアンケート回答のうち、184人が「虫が湧いて困った」という回答結果だった。段ボールコンポスト内の温度を上げれば、虫が死滅するという結果が出ている。ぜひ挑戦していただきたい。

加藤市長

- ・ 段ボールコンポストによる堆肥化は、5、6月から取り組み始めた方が多く、現在、生ごみが消えてなくなる喜びを感じている状況だと思う。大事なのは、できた堆肥を今後活かしていくことである。堆肥を大地へ戻し、それが野菜などに姿を変え、私たちの体に戻るという一巡を目指しており、それができて初めて、取り組みの素晴らしさがわかると思う。
- ・ わが家のベランダでは、段ボールコンポストで小松菜を育てている。毎日食べている。春先は菜の花を咲かせたいと思う。

- ・ 段ボールコンポストを多くの方に楽しんでいただきたい。